

養老鉄道存続特別委員

◎審査案件

- ・地域公共交通網形成計画策定のためのアンケート調査等の資料について
- ・養老線地域公共交通再生協議会の状況について

問 アンケート調査結果の中で「養老線を利用していない人が、今後利用意向があるのか」との問いに「利用する」と答えた人が6.6%と低かった理由は。

答 この質問は、養老線を利用しない人 及び 不満理由を言われた人に尋ねた質問で、「不満理由が改善された時に利用しますか」の問いに対して、「利用する」が6.6%「わからない」が48.3%「利用しない」が33.2%となっているが、詳しい原因は今回の調査では解っていない。

問 養老線管理機構の組織で理事会（業務執行機関）の6人は、大垣市など3市で

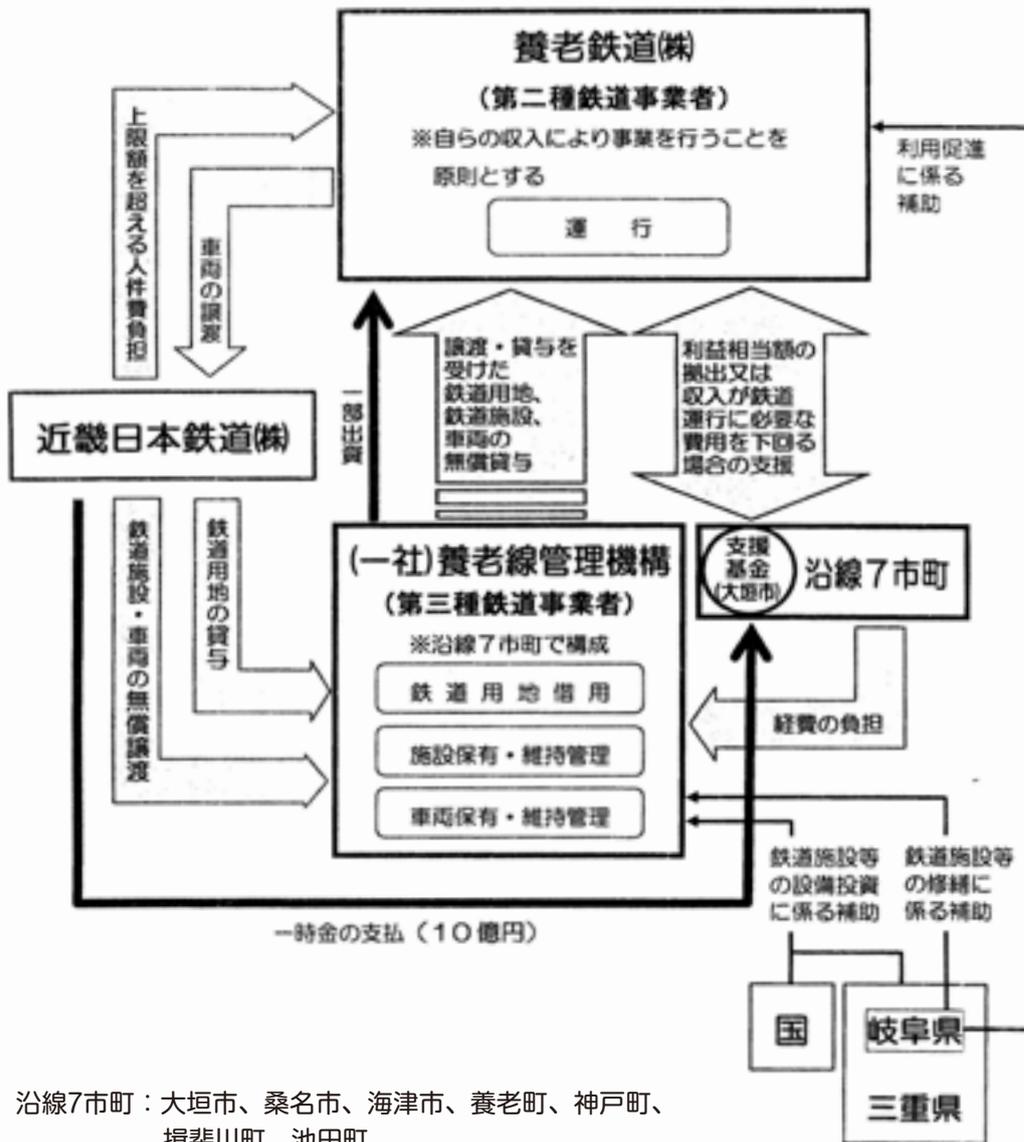
構成され、池田町など4町がメンバーに入っていないが、3市側の意見で進められるのか。

答 一般社団法人管理機構以外に、養老鉄道存続の担当課による幹事会で議論をする。また、管理機構では事務局も組織され4町の意見は反映され、理事会の協議後に、沿線市町の首長による社員総会（最高意思決定機関）が開かれる。

問 主要企業でも「駅までの移動手段があれば利用する」との調査結果が出ている。駅までのアクセス方法を見直せないか。揖斐川町には、揖斐駅までのコミュニティバス路線があるが。

答 養老鉄道の各駅までの二次交通は、重要と考えているが、沿線市町では状況に差異がある。アクセス方法については、管理機構に商工会等も組織されているので、検討していく。揖斐川町では、民間の路線バスが廃止に伴い運行が止まっている。

◎養老線の新たな事業形態へ移行後のスキーム図



沿線7市町：大垣市、桑名市、海津市、養老町、神戸町、揖斐川町、池田町